

新妻は

メス奴隷

ア  
ナ  
タ  
ご  
め  
ん  
な  
さ  
い



恥辱なる小説

## お断り

こちらは、『新妻はメス奴隷〜アナタごめんなさい』のお試し版になります。

尚、本作品は販売時におきまして、改変の可能性がございます。その点は、十分ご理解のほどよろしくお願いいたします。

## ご注意

ここに掲載されている物語は、全てフィクションです。  
実在の人物・団体・事件などには、一切関係ありません。  
本書のコピーを固く禁じます。

## 登場人物紹介

### 【三橋優子（みつはし ゆうこ）】

B 84 W 58 H 86      二十七才

本作品のヒロインであり、結婚して半年の新妻。

大学を卒業後、中堅規模の商社会社に事務職として入社するが、同じ社の営業部門にいた秋伸と知り合い結ばれる。

成熟した女性らしい魅惑的な肢体に、どこかあどけなさを残す美顔。

何事につけても控えめでおしとやかな性格から、寿退社を迎えるまで、社内の誰からも好かれていたようである。

結婚後四ヶ月で、夫の秋伸が子会社に出向することになり、週末だけの夫婦生活に寂しい思いをしている。

### 【三橋秋伸（みつはし あきのぶ）】

優子の夫であり、現在二十九才。中堅規模の商社に勤めている。

妻の優子とは職場結婚で結ばれたが、新婚生活が始まった矢先に、子会社に出向を命じられる。

本人曰く、やりがいのあるプロジェクトとのことで張り切ってはいるのだが……

学生時代からラグビー部に所属していた影響か、ガッツ溢れる好青年である。

【山波哲司（やまなみ てつじ）】

優子が商社に入社した時の上司であり、現在は、夫である秋伸の上司に収まっている。

四十代前半ながらも、社内ではやり手と評判の社員であり、ゆくゆくは執行役員という噂さえある。

優子を秋伸に紹介し、恋愛の橋渡しから結婚式の仲人までを買って出たのも彼である。

面倒見が良く、優子も職場の上司として尊敬していたのだが……

## 目次

第一章 新妻の指は股間へと沈み……

第二章 脅迫くレイプ魔のペニスと結ばされて

第三章 メス奴隷への序曲

第四章 新妻の鳴き声は、個室トイレに響く

第五章 露出調教は、恥肉の悦び

第六章 恥辱接待く闇夜の路地裏で

第七章 わたしは負けない！ あなたの妻だから

## 第二章 レイプ魔のペニスと結ばされて

### (一)

山波哲司は、優子が入社した時の上司であり、夫の秋伸を引き合わせてくれた人物である。

結婚式の時は仲人も快く引き受けてもらい、今は秋伸の上司に収まっている。四十代前半ながらも、社内ではやり手と評判の社員であり、ゆくゆくは執行役員という噂さえあると、秋伸は話していたが。

その噂の上司が、優子の目の前に立っていたのだ。

彼女が仕事を覚え始めた頃と同じ、あの柔和な顔つきで。ただし、スーツはおろか、下着さえも脱ぎ去った全裸な男の姿で。

「ふふふっ、結婚式以来だね。半年間、三橋君の元で人妻をしてたけど、優子ちゃんは全然変わっていないね。いやあ、女子大を卒業して入社したあの頃と、全く一緒だよ。社内でもたった一日で噂になる美人で、まだ、あどけなさを感じさせる子供供したところまで全部。くくくっ、三橋君には土日とも、たっぷりと抱かれているのね。セックス……そう、セックスだよ」

「いい、嫌あつ！ 来ないで……近付かないで……」

一步、また一步と獲物を追い詰めるかつての上司は、変質者の目をしていた。素裸で、顔を背けても目に入る怒張した肉棒を揺らせて、逃げ場を失った優子との距離を確実に狭めていく。

「け、警察を呼びますよ」

優子はさすがの思いで、決めゼリフを吐いた。

だが、山波は動じない。それがどうしたと言わんばかりの態度で、更に間合いを詰めた。

スマホは、秋伸からプレゼントされたバッグに入っている。出掛ける時は必ず持ち歩くバッグだが、今はリビングのテーブルの上にそれが見える。

電話もそうだ。こちらはリビングの先、玄関から入った廊下の突き当たりに設置してある。

どちらにせよ、迫る山波を乗り越えなければならない。

「こ、来ないで……！　少しでも私に触れたら、これでアナタを刺します」

「ほおつ、優子ちゃんに、そんな刃物は似合わないと思うけど」

咄嗟に握り締めていたステンレスの万能包丁にも、山波の顔付きは変わらない。驚きもしない。柔和な表情のまま、突き付けた包丁を気にすることなく腕を伸ばして……

「ヒイ、嫌！　触らないで！　イヤアッ、イヤアアッッ！」

銀色に輝く刃物は、意図も簡単にはたき落とされていた。

鋭い手刀を優子の手首に浴びせた山波は、包丁を失くした彼女の腕を掴み、キッチンから引きずり出していく。そのまま男の腕力でリビングまで連れ出すと、優子はソファーに向けて突き倒されていた。

これからの情事にジャマだとはかりに、彼女のバッグが乗ったテーブルも足で蹴り出すと、仰向けのまま顔を引きつらせた新妻をマジマジと見下ろした。

「一緒に仕事をした時は、おしとやかなお嬢さんだと思ってたんだが。ふふふつ、三橋君とセックスするうちに、ジャジャウマな人妻に成り下がったようだね」

「ああ、アナタなんか……離れて、今直ぐに離れて！」

三人掛けのソファーに寝転ばされても、スラリとした優子の手足は食み出していた。

頭と太股を左右の肘掛けに載せて、背中から腰を座面に押し込められた窮屈な姿で、それでも彼女は抵抗を示そうとする。両手を闇雲に突き出しては、ヒザから下の両足も闇雲にバタつかせていた。

勃起させたペニスを堂々と晒した男が、若い人妻を相手に何をするのか。

助けを呼ぶ手段を失ってはいるが、その行為からは何としても身体だけは守り抜かねばならないのだ。愛する夫のためにも。

「優子ちゃん、僕とセックスしてくれるかな？ ふふふつ」

山波は床に落ちていたガムテープを拾い上げると、音を立てて引いた。



いや、そんなものが都合よく転がっているわけではない。この男が、事前に準備していたのだろう。

（どうしたのよ、優子？！ 早く起き上がらないと、この男が……！）

貞操を奪われる危機感は、身に沁みて理解していた。けれども度を越えた恐怖が、彼女の身体を見えない鎖でじわじわと縛りつけていた。

「やあ、やだあ……いやああっ！」

男の両腕いっぱいに伸ばされて千切られたガムテープが、まずは振り回す優子の両腕を封じた。

慌てて引っ込めて、胸をガードさせるようにクロスしたその手を、頭上にまで持ち上げさせる。そして、手首を揃えさせると厳しく縛り上げるのだ。

声を洩れさせて暴れる新妻に、山波は手加減なしのビンタを浴びせた。グローブのような分厚い手のひらが、右のほつぺたを打ち据え、翻した手の甲が、左のほつぺたも打ちのめしていた。

両親に手を上げられたことのない優子である。幼い頃から礼儀正しく、それに見合う愛情を持って育てられた彼女には、衝撃過ぎる仕打ちだった。

頬に焼けるような痛みと共に、どうしようもない絶望を感じた。舌が血の香りを舐め取り、逆らう愚かさを彼女の理性に伝える。

「優子ちゃんが悪いんだよ。暴れたりするから」

虚ろな目で見上げる新妻に、男は喉の奥で笑いかけると、ガ

ムテープをまた長々と伸ばしては千切った。

八頭身美人を示す美しい両足をするすると撫で擦って、優子に抵抗の意思がないことを確認すると、密着させるように組み合わさせた足首にもガムテープを巻き付けていく。

## (二)

ビリッ！ ブリッ！ バチッ！

エプロンの留め紐が引き千切られ、ブラウスのボタンが弾け飛び、スカートのホックとファスナーは、力任せに破壊される。素足を覆うストッキングは、弄ばれるように引き破られていた。

秋伸と肩を並べて座ったソファアの上で、優子はボロキレにされた衣装を纏わされていた。

はだけさせられた胸元からは、ページュ色の飾り気のないブラジャーを露出させて、太股の半ばまで引き下ろされたスカートの上では、同色の地味なパンティーも晒している。

「なんだ。もつと色っぽい下着を期待してたのに、これじゃ、僕の女房と変わりはないな。まあ、それだけ優子ちゃんが、主婦を真面目にやってるってことかな」

柔和だった男の顔は、鼻の下を伸ばした中年のスケベ面に変化していた。

下着を覗かれている。それも昨日の夜に風呂上がりに着替え

てほぼ丸一日、肌に貼り付かせていたモノをだ。

「イヤ……み、見ないで……」

「ふーん、見ないでつてことは、触ったりするのはOKってことかな。ふふふつ、脱がしたりすることも……」

優子が露わにする羞恥心は、性欲をたぎらせた山波にとって最高のディナーということだろう。

ブチイッ！

「キャアアツツ！」

ソファーに押し付けた背中中で、嫌な音がした。肌に触れていた下着が、突然凶器のように噛み付き痛みが走る。

山波が伸ばした腕が優子の胸元へと向かい、乳房をガードするブラジャーが乱暴に取り去られたのだ。二つ並んだカップの継ぎ目に太い指が喰い込み、思いつ切り引つ張り上げられたのである。

豊かな成長を見せた双球が、こんな時でもプルンと弾けて男を悦ばせるのが悔しかった。

「優子ちゃん、いくつになった？」

「くっ……二十七です……」

「はははっ、年を訊いたんじゃない。優子ちゃんの、おっぱいのサイズを訊いているんだよ」

背中ストラップが伸び切り、無残な姿を晒したブラジャーを、山波は指の腹で撫でつけながら答えを促した。

「は、はちじゅう……よん……です」

口にして、悔し涙が溢れてくる。

「ひゅうつ♪ 入社した頃は、確か……80だから、それから五年で4センチもデカパイになったってことだな」

「な！ どうして、それを？」

だが女心が見せる光る液体も、山波が呟いた言葉の前には、驚きの色に染まる。

「はははっ、そんなにびつくりことはないだろう。僕は総務の連中にも顔が利くんだよ。気になる女子社員のスリーサイズくらい、缶コーヒー一本おごってやったら、軽い、軽い」山波の人脈をアピールするしたり顔に、優子は茫然とする。まさか、女子社員が受けた健康診断の結果までもが漏れていたとは！ それも、性的な材料として。

「因みに優子ちゃんのヒップサイズは、寿退社前の測定で86だったけど、あれから、三橋君にたっぷりと可愛がられたからねえ……さあて、今はどうかな？」

むき出しの乳房とボロキレの仲間入りを果たしたブラとの間を、山波の目が何度も往復していた。それが意味深な言葉と同時に、一気にスライドを開始する。

「あ、ああ……いや……」

男のターゲットが下腹部に移り、優子は声を詰まらせた。

その目の前で山波は腰を屈めると、両腕を唯一残された下着に向かわせる。

「や！ 嫌よ！ そ、それだけは、許して……」

優子の抵抗が俄かに激しさを増した。四肢を拘束されながら、それでも女の部分を包むパンティーだけは守ろうと、イモムシのように身体を振るのだ。

「無駄だよ、優子ちゃん。ほうら、もうすぐキミの大切な処が……くくくっ」

「やめてえ……お願いだから、あ、ああああ……」

汗ばんだ指の腹がウエストの肌にピタッと貼り付き、ナメクジのように這った。ヘソの窪みの下辺りまでを覆った婦人シヨーツを指先が掴みあげ、ゆっくりといたぶるように引き下ろしていく。

健気に閉じ合わせた太股の上で、慎ましく生え揃った恥毛が風もないのにそよいだ。

ギュツと目を閉じた優子が、露出する肌全てを鳥肌に変化させながらも、羞恥の極みを耐え凌ごうとする。

（優子、泣いちやダメよ。この男は、あなたが恥ずかしがるのを愉しんでいるのよ）

まるで蟻の行進のように、それでも優子のパンティーはジリジリと脱がされていく。

先行するサイドのゴムが太股の半ばまでずり下がり、絡み付いたままのスカートに触れた。ベージュ色をした主婦らしい色合いのパンティーが、クロッチの部分を裏返した状態で、優子の股間から引き剥がされていた。

「とうとう、オマ○コが丸見えになったね」

「ひい、ひやあつ……ああ、見ないで……」

むっちりとした太股の肉を密着させても、秘部の全ては隠し切れていない。

黒い翳りの下から見え隠れする肉の割れ目に向けて、山波がふうつと息を吹きかけた。直視できずに目を閉じていた優子が、泣きそうな悲鳴と共に、下腹部を身悶えさせる。

（秋伸、助けて……優子、このままだと……）

日はどつぷりと暮れていた。キッチンの照明に反射する時計の文字盤は、午後七時三十分を指していた。

### （三）

「どうかかな？　ここで、無抵抗な優子ちゃんをレイプしても構わないんだけど、僕と取り引きしてみないか？」

意味ありげな口調で山波が話しかけてきたのは、悲鳴を上げる優子の裸体を、男がスマホで撮影した後のことだった。

今でも『カシヤ、カシヤ』としたシャッター音と、そのたびに焚かれるフラッシュの光が、鼓膜と脳裡にこびりついて離れない。

「取り引きって……？　どうせ、いやらしいことをする気なんでしょう？　だったら早くしなさいよ！　そんなのどうでもいいから、私をレイプしなさいよ！」

控えめでおしとやかな彼女とは思えない、激しい口調で優子は言い返していた。四肢を拘束されたまま写真まで撮られて、

諦めの感情が胸の中いっぱいに拡がっていた。

「おう、怖いねえ。確かに取り引きをしたって、優子ちゃんとエッチすることには変わらないけどね。だけど、このままだと……三橋君が大変なことに」

「えっ！　どうして……あ、あの人は関係ないでしょ」

優子の瞳が微かに震えた。渦巻く怒りの中に、水を差すような不安が流れ込んでくる。

「それが、関係大ありなんだよね。僕は三橋君の上司なんだよ。その僕が部下の妻をレイプする。この意味が分かるかい？」

「そんなことをしたら、あき……いえ、私の夫が黙っていませんし、アナタは警察に掴まって身の破滅です」

「ふふふっ、だろうね。でも、勤めている会社はどう思うかな。レイプ魔として僕は裁かれるが、被害者の夫といえども、彼の処遇は……優子ちゃん、キミも同じ職場で働いていたんだ。商社会社の体質がいかに汚点を嫌うか知っているよね？」

「……」

山波の人を喰った話にも関わらず、優子は反論の言葉を見失っていた。

正論を振りかざしただけでは生き残れないのが、世の中である。特に現職の商社マンである山波の言葉には、リアルな説得力がある。屁理屈だろうが、それが現実というものなのだ。

左遷……解雇……世間の目……秋伸は？　私は、優子は？

「それと、勝手口の鍵が掛っていなかったけど、あれって欲

求不満な優子ちゃんが、僕を誘おうとしてたのかな？ ふふ  
ふっ」

「違います！ それは、私がうっかりして、だから……」

山波の含み笑いが緊縛の杭となって、揺れ動く優子のハートに打ち込まれていた。

週末にだけ会える夫の笑顔に上せあがってなど、レイプ魔な元上司を前に口が裂けても言えない。

（だったら、私は……優子は……この男に……）

幻影のように秋伸の姿が現れて、ずっと消えた。

その一瞬に目を凝らして、優子は垣間見える夫の声を覗いた。心の叫びを打算的に解釈していた。

理不尽すぎる脅迫である。けれども純粋な少女ではない。大人の事情を知り過ぎた二十七才の女は、苦渋の決意を呑む覚悟をそして決める。

「それで、取り引きって……私は何をすればいいの？」

自分でも驚くほど冷たい声が聞こえた。引き絞っていた太股の筋肉が、ほんの少し緩むのを感じた。

#### (四)

「ああ……こんなの、恥ずかしい……」

「優子ちゃん、いや、優子。目を閉じるんじゃない！」



消されていたリビングの照明は、赤々と点灯されていた。LEDライトの光の中で、優子は天井を仰ぎ見ながら股を開いていた。

次第に支配者としての本性を発揮する山波。

その憎い男の身体を優子は跨いでいる。ボロキレだった衣装は全て取り払われて、四肢を拘束していたガムテープも除去されて、生まれたままの全裸の身体を、隠すべき女の秘部も含めて全て曝け出しているのだ。

「僕のことを愛する夫として、優子は相手をしてくれるんだろう？ だったらまずは、愛する妻のオマ○コを観察しないとな」

山波の目線が、デリケートな部分で這い回るのを感じた。夜の営みで秋伸の目にしか触れさせなかった女の亀裂を、優子は卑劣な男に覗かせているのだ。

これが、かりそめの夫婦が交わした取り引きである。

秋伸が出向先から戻って来る、およそ三時間の間、優子は山波の妻として過ごさなければならぬのだ。

素直に従えば、今夜の出来事はなかったことにする。おまけに秋伸の上司として、彼が取り組んでいるプロジェクトを全面的に支援すると。

もし取り引き不成立なら、力づくで優子をレイプし、その足で自ら警察に出頭すると。

（あなた、ごめんなさい。不埒な優子を、どうか許してください）

口にすれば山波がニヤ付くセリフを、優子は幾度となく胸の

内で唱えていた。

「旦那とズボズボやっている割には、綺麗なマン肉をしているじゃないか。今度は指で開いて、中の肉を見せるんだ。ふっ、優子は僕の妻だから、ちゃんと出来るよな」

「はあ、はい……優子は、アナタの妻です。だから……くうっ、見てください」

体験版はここまでです。

続きは本編でお楽しみくださいませ。

## 【既刊小説ご案内】

お漏らしする女の子って嫌いですか？

女の子が、オシッコを我慢しながら身悶えるストーリーです。  
『オシッコのお漏らし』がテーマになっています。

卑劣な少年に脅迫され、トイレに行くたくても行かせてもらえない美少女が、人目を気にしながら、ひたすら排泄に耐え続けます。

排尿を禁止させられたまま、少年とデートと称して街の散策を命じられます。

我慢に我慢を重ねて、少年の目の前で排尿。羞恥の涙を流します。

作品文字数 46423字（本文のみ）

全編が『オシッコ』『我慢』『お漏らし』『羞恥』『排泄』『脅迫』『オムツ』のキーワードを元にストーリーが展開していきます。

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。  
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 400円）

## 美少女奴隷 淫獄の世界

「ふふっ、散歩には首輪とバイブを忘れないようにね」  
兄の理不尽な命令に、妹は涙ながらに従わされる！

その彼女の身代わりになった少女もまた、卑劣な罠に！

全裸四つん這い・バイブ挿入散歩、兄妹相姦、ノーパンテニス練習、処女膜喪失バイブオナニー。

総文字数 49671字（本文のみ）

兄にレイプされた智香は、その後も凌辱され続けていた。狂気が精神を支配する兄に少女は怯え、未熟な肢体を羞恥な責めに差し出していく。

そんな智香の姿に異変を感じたのは、彼女が所属するテニス部の主将である眞希だった。

真相を知った眞希は、智香を救おうと行動を開始する。

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 400円）

## 美少女奴隷 淫獄の世界2

実の兄に凌辱され、性奴隷として調教される少女！

その彼女に姉のように慕われる少女もまた、身代わりという罠に掛り性奴隷へ！

全裸露出後背位セックス、ノーブラ・ノーパン登校、ノーブラ・ノーパンテニス、秘処愛撫レズ、乳首綱引き、リモコンローター露出責め。

総文字数 50100字（本文のみ）

実の兄に凌辱され処女を奪われた智香は、その後も性奴隷として弄ばれ続けていた。

そんな智香の様子に疑問を感じた先輩の眞希もまた、その兄の言葉巧みな罠に掛り、自らの手で処女を奪う羽目になる。

（私が頑張って男を満足させないと、智香が苦しむことになる）

（わたしがい辛いことでも我慢してお兄ちゃんとエッチしたいと、お姉さまが……）

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜き400円）

### 美少女奴隷 淫獄の世界3

神聖なテニスコートで凌辱の限りを受ける二人の美少女。眞希と智香。

愛するテニスのため辛い練習にも耐えてきた少女達が、卑劣な罠に嵌り性奴隷に身を落としていく。

ホームレス達による集団輪姦、全裸脱衣テニス、瘤縄渡り、浣腸、膣穴使用集団愛撫奉仕、テニスラケットスパンキング。総文字数 55286字（本文のみ）

「眞希と智香には、この縄にオマ○コを擦り付けたまま、部屋の中を歩いてもらうの。そうねえ、3往復ほどしてもらおうかしら」

眞希は目の前で揺れる荒縄を見つめた。

和樹と美嘉の手により、部屋の壁を橋渡しするように2本の毛羽立った縄が張られている。

そして、その縄にはテニスボールほどの大きさをした歪な結び目が、いくつも設けられているのだ……

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜き400円）

## 女教師被虐の涙

生徒からも同僚教師から愛されていた美貌の女教師裕子は、父兄との些細な関係を疑問視され、山奥への分校へと配置転換させられる。

だが、その分校に居座る生徒と教師は、裕子を教師としてではなく、自分達の性処理奴隷にすることを企んでいたのだ！！

輪姦・性器洗浄・リモコンバイブ・秘部山芋責め・極太ディルド等々。

総文字数 50143字（本文のみ）

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説全てのお試し版も同梱済み。

（税抜 400円）

## 女教師被虐の涙2

教師と生徒達に『性処理奴隷』として調教されている美貌の女教師裕子。そんな彼女の元を後輩教師である麻衣が訪ねてくる。

だが男達は、裕子に勝るとも劣らない麻衣の美貌に目を付ける。男達の牙が麻衣にも！

バイブ挿入四足歩行・時間無制限集団輪姦・レズ・秘部公開フェラチオ等々。

総文字数 52221字（本文のみ）

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 400円)

### 女教師被虐の涙3

姉妹を思わせる美人女教師が監禁され、性奴隷に調教される！

更には。彼女達を助け出そうとした孤高な美少女までもが、男達の餌食に！

ダブルデイルド・オナニー、生実演性教育、浣腸フェラチオ、三角木馬等々。

女教師 被虐の涙シリーズ いよいよ完結！！

総文字数 55216字(本文のみ)

囚われの身のまま、『性処理奴隷』として調教される美貌の女教師裕子と麻衣。

連日の厳しく恥辱な責めにも屈しない彼女達に、男達の調教は激しさを増していく。

更には、手を差し伸べる美由紀までもが！

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 400円)

あなたのためなら私は……

夫が勤務中に倒れて病院に……一本の電話が、若き新妻の運命を変えた！

男に騙され連れて来られた館で、新妻は身体を弄ばれた揚

句、性処理の道具になるよう脅される。

痴態を撮影され、夫の勤める会社まで人質にされた新妻に選択肢はなかった。

夫以外の男のペニスに犯される若葉。

監視カメラに撮影されながらの、夫との愛の営み。

露出過剰な衣装での、羞恥に満ちた散歩。

そして毎日のように金山の館に呼び出されての、セックスという名の調教の数々。

同じ境遇の美少女アイドルを巻き込んでの女たちの饗宴は続く。

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 300円)

## あなたのためなら私は……第2部

若き新妻が穢されていく！

可憐なアイドルが凌辱される！

性奴隷として。性処理の道具として。

男に騙され連れて来られた館で、新妻は身体を弄ばれた場句、性処理の道具になるよう脅される。

痴態を撮影され、夫の勤める会社まで人質にされた新妻に選択肢はなかった。

夫以外の男のペニスに犯される若葉。

監視カメラに撮影されながらの、夫との愛の営み。

露出過剰な衣装での、羞恥に満ちた散歩。

同じ境遇の美少女アイドルを巻き込んでの女たちの饗宴は続く。



縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。  
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 300円)

### あなたのためなら私は……第3部

夫が勤務中に倒れて病院に……一本の電話が、若き新妻の運命を翻弄する！

連日連夜に渡る男達の過激な調教に、若葉の身体は傷付き、女としてのプライドまでもが引き裂かれていく。

だが、それでも彼女は挫けるわけにはいかなかった。  
共に耐え忍ぶアイドル玲香のため。

そして、愛する夫のため。

あなたのためなら私は頑張れる。どんなに辛くて恥ずかしい  
ことでも。

美貌の人妻と美少女アイドルが恥辱な行為に泣き叫ぶ。歓喜  
の涙を流す。

『あなたのためなら私は……』シリーズ完結作品！

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。  
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 300円)

### 妹はオナペット 前篇

家族のキズナを守るため、少女はその清純な肢体を卑劣な兄

に差し出す決意をする。

終わりのない恥辱。壊れそうな心。美少女を羞恥地獄へと落とす幕が開く。

既刊作品『禁忌……叶わぬ想い 前篇』に、新たに立ちキアラを中心とした挿絵を豊富に掲載。

一部ストーリーも編集し直しました。

家族思いの美少女智代が、表情豊かな挿絵として登場します。清純な少女が卑劣な兄のオナペットに転落する過程を、絵と小説の両面からお愉しみください。

本作品はPDFファイルで構成されています。

挿絵枚数 48カット（トップ絵を含む）

総ページ数 縦書き用 105枚

横書き用 95枚

総文字数 35570文字

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 500円）

## 妹はオナペット 後篇

卑劣な兄の策略にはまった少女は、オナペットになることを宣言させられる。

翌日から始まる羞恥の満ちた調教の日々。

既刊作品『禁忌……叶わぬ想い 後篇』に、新たに立ちキアラを中心とした挿絵を豊富に掲載。

ストーリーも大幅編集し直しました。

家族思いの美少女が、表情豊かな挿絵として登場します。

清純な少女が卑劣な兄のオナペットに転落する過程を、絵と小説の両面からお愉しみてください。

本作品はPDFファイルで構成されています。

挿絵枚数 48カット（トップ絵を含む）

総ページ数 縦書き用 111枚

横書き用 103枚

本作品のみ文字数 41873文字

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。  
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 500円）

## 初恋の人は性処理ナース

アナタにお願いがあるの。ナースをひとりレイプして欲しいの。そうよ、徹底的に犯してちょうだい。彼女が鳴き叫ぶくらいにね。

その夜、僕は行動に移した。

まだあどけなさを残す看護婦さんを、力づくで犯していく。何度も調教して、僕専用の性処理ナースにしてみせる。

『今夜も来てくれたんだ。偉いね、性処理ナースさん』

本製品は、ADV形式のPC用ゲームになっております。

ストーリーは官能小説風。

男を知らない若いナースが卑劣な罠にはまり、調教の名の元に男に犯されていく。

尚、当製品をプレイされる前に、体験版をプレイし、動作確認をお願いします。

テキスト文字数 39000字

任意でのセーブ・ロード可  
テキスト消去 背景表示可  
音楽あり（MP3）を使用

（税抜 600円）

※お買い求めは、本作品購入サイト様でお願いします。  
尚、作品詳細につきましては著者が運営しておりますサ  
イト『恥辱なる小説』でもご覧になれます。

<http://chijoku.red/>